

【法第28条第1項関係 「前事業年度の事業報告」】

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人らしく

理事長 甲斐 圭子

1 事業の成果

子どもの貧困を中心とした社会課題の解決を目指し、当法人は地域に根ざした支援活動を展開してきた。物価の上昇が続くなか、経済的困難はさらに深刻化し、生活のしづらさが家庭の孤立を招く一因となっている。十分な栄養や学習環境が確保されない子どもたちが存在し、不登校の児童が増加する傾向も見受けられている。こうした状況においては、行政や教育現場だけでは対応が難しい領域に対する民間との連携や支援の充実が、今後ますます求められている。

「みやこのじょうこども宅食運営事業」では、見守り強化事業として、見守りが必要な児童や経済的に困難を抱える家庭を対象に、定期的な食品の配送による「こども宅食」を実施した。本事業は、単なる食支援にとどまらず、スタッフやボランティアによる対話を通じて、家庭の孤立感を軽減し、潜在的な課題の早期発見・対応につなげることを目的としている。支援対象者一人ひとりの状況やニーズを把握しながら、柔軟かつ継続的な支援を行った。

「フードバンクみやこのじょう運営事業」では、都城市および県西地区を対象に、物価高騰や家庭環境の変化により生活に困難を抱える子育て世帯を支援するため、「こども宅食」などの関係団体への食品分配を行った。これらの支援を通じて、学校に通えていない子どもたちとの新たな接点生まれ、食品の仕分け作業に参加する子どもも見られるなど、子ども自身が関わる機会の創出にもつながっている。

活動の質の向上と団体としてのコンプライアンス強化を目的に、「ハラスメント防止セミナー」を2回開催しました（第1回：10月26日・参加者31名、第2回：11月22日・参加者15名）。講義とワークショップを組み合わせた内容により、参加者からは「自分が加害者になっていたかもしれないと気づいた」「地域の課題にもつながる深い学びだった」といった声が多数寄せられた。

フードバンク体制の構築に向けては、2022年度より農林水産省の「フードバンク活動強化に向けた専門家派遣事業」を活用し、地域連携の強化に継続的に取り組んでいる。2024年度はその成果として、行政や社会福祉協議会等との意見交換会を2回実施し、関係機関との協力体制が着実に進展した。

また、食品提供の安定化に向けては、合意書を締結した企業8社・団体19団体と連携し、年間を通じた食品の取扱量は約7トンに達した。県西地区（えびの市・小林市・高原町・三股町・都城市）とも広域的な連携体制を構築し、地域内での食品循環の仕組みづくりの推進を図っている。

学習支援事業「楽習会」は、経済的困難や家庭内不和、不登校といった課題を抱える子どもたちを対象に、学校外で安心して学べる居場所の提供を目的として実施した。令和6年4月から令和7年3月にかけて運営され、都城市内の子どもたち延べ629人が参加し、10名の大学生やボランティアスタッフが支援に従事した。

本事業では、子ども一人ひとりの学習進度に寄り添いながら、学習習慣の定着と自己肯定感

の向上を図った。地元企業からは文具や書籍などの寄付があり、子どもたちの意欲向上と学習環境の整備に寄与した。

また、受験生を対象としては、夏季に学力強化を目的とした合宿を行い、学力向上と参加者同士の親睦を深める機会を提供した。さらに受験前には模擬面接を実施し、本番さながらの練習を通じて実践的な準備を行った結果、参加者全員が希望校に合格する成果を収めた。

本年度は、「楽習会」として初となる卒業式も開催し、継続的な支援から進路決定・卒業までの一連の支援体制を構築することができた年であった。

「居場所支援事業」では、学校に通うことができない、または通うことに困難を抱える不登校児童とその保護者を対象に、安心して過ごせる場の提供と相談支援を行った。参加者からは「家以外に安心して過ごせる場所ができた」「他の親と話せて気持ちが楽になった」といった声が寄せられ、心の拠り所としての役割を果たしている。

さらに、2025年2月からはフリースクールを開設し、一時的な居場所の提供にとどまらず、継続的な学びの機会へとつなげる体制を整備。相談・支援から学びの再構築まで、一人ひとりの状況に応じた“入口から出口まで”の支援の流れが構築された。

「制服バンク事業」は、地域住民から提供された制服のメンテナンスを行い、必要とする家庭に無償で提供する支援活動を継続しました。2024年度の実績は、利用者9名、フォーマル着のレンタル利用者2名、制服の提供者10名となっており、うち行政等からの依頼もあり、地域内で支え合う仕組みとして根付いている。

「その他の事業」キッチンカー事業では、地域の子育て支援団体からのオファーや、ボランティアフェスティバルなどの地域イベントへの参加を通じて、活動の幅を広げている。本事業は、飲食物の提供を通じた交流の場として機能するだけでなく、その売上が団体の運営資金の一部として還元され、活動の継続と自立的な運営体制の構築に寄与している。

## 2 事業内容

(特定非営利活動に係る事業)

事業名（定款に記載した事業）	具体的な事業内容	① 当該事業の実施日時 ② 当該事業の実施場所 ③ 従事者の人数	④ 受益対象者の範囲 ⑤ 人数
○フードバンク事業	フードバンクみやこのじょう運営事業	① 令和6年4月1日～令和7年3月31日 ② 川東BASE(都城市下川東) ③ 2人	④ 都城市内と県西地区の各支援団体を利用している人数 ⑤ 延べ5,208人
○食のセーフティネット事業	みやこのじょうこども宅食運営事業	① 令和6年4月1日～令和7年3月31日 ② 川東BASE(都城市下川東) ③ 7人	④ 都城市内の子どもと大人 ⑤ 延べ1,345人
○ICT活用による学習支援、就労支援事業	IT楽習会	実施しなかった	
	楽習会運営事業	① 令和6年4月1日～令和7年3月31日	④ 都城市内の子ども ⑤ 延べ629人

		② 川東 BASE(都城市下川東) ③ 10 人	
居場所・相談支援事業	居場所支援	① 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ② 川東 BASE(都城市下川東) ③ 2 人	④ 都城市内の不登校の子どもと親 ⑤ 延べ 42 人
リユース事業	制服バンク	① 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ② 川東 BASE(都城市下川東) ③ 2 人	④ 都城市内のひとり親家庭の親と子 ⑤ 延べ 21 人

(その他目的を達成するために必要な事業)

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	① 当該事業の実施日時 ② 当該事業の実施場所 ③ 従事者の人数	④ 受益対象者の範囲 ⑤ 人数
○その他の事業	キッチンカー事業	① 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ② 川東 BASE(都城市下川東) ③ 2 人	④ 一般の方 ⑤ 延べ 230 人